あすりーと高岡

第16号

第53回高岡市民総合体育大会　総合開会式
南星中学校　陸上部主将　関口雅隆選手の宣誓

2000年とやま国体夏季大会開催
55日前イベント・第53回富山県民体育大会出場選手激励会
芳野中学校　ソフトテニス部主将　岡野晃希選手の謝辞

平成12年度評議員会 体育功労者表彰式

平成12年5月27日(土)
於　高岡商工ビル

塩谷会長開会の挨拶、山田二〇〇〇年国体事務局長の挨拶に続いて体育功労者の表彰式が行われた。

表彰状の受賞者

・能和　秀幸（バスケットボール協会）
・道前　正光（ヨット協会）
・三橋　光昭（剣道連盟）
・今井　彰宏　・谷内　貴昭
・大山　宏司　・本田　和裕
・今井　紀夫　・吉川　大助
（トナミ運輸㈱）
・河口奈緒美　・明石　由美
・山本　静香　・山田　青子
・舛田　恵（三協アルミニウム工業㈱）
・裏地　美香　・沼崎　優子
（㈱タカギセイコー）
・三協アルミニウム工業㈱バドミントン部
・トナミ運輸㈱バドミントン部
・立山アルミニウム工業㈱ハンドボール部
・塩谷建設㈱女子柔道部
・高岡ビックウェーブ

感謝状の受賞者

・西木　正（野球協会）
・加藤　武夫（ゲートボール協会）
・熊木　義信（ソフトボール協会）
・竹内　孝雄（相撲連盟）
・増原　哲夫（バレーボール協会）
・杉江　康秀（柔道連盟）
・喜多　宗史（バレーボール協会）
・土井　政幸（サッカー協会）
・板坂　修治（パワーリフティング協会）

ひきつづいて評議員会の議事に入り議長に鍋島遼一氏を選任し議題に沿って次の事柄を承認・可決した。

一、平成11年度事業及び収支決算報告について
二、役員の選任について
三、平成12年度事業計画及び収支予算について

平成12年度は、役員改選の年に当たり、新役員は左記の通り決まった。

(財)高岡市体育協会新役員

会　長　塩谷　孝一
副会長　谷道　巌・本保　菱雄
　　豊本　弘・大坂　昭輔
　　荒井　武夫
専務理事　川渕　義弘
常務理事　高倉　正和・福尾　博志
理　事　中西　脩・狩野　忠則
　　氷見　脩・山田　均
　　宇於崎　弘・上野　貴司
　　宮崎　恒・堺　三徳
　　宮崎　外行・谷内　浩仁
　　橋　修・駒井　進一
　　中　寳・福田　宗志
　　京田　和男・魚谷美佐栄
　　別所　拓・土合　利広
　　中田　肇
監　事　川中　亨・能登　宏司

とやま国体 総合優勝目指して

去る6月21日県競技力向上対策本部長を務める中沖豊知事、新保本部専務理事、大代県教委体育課長、高森県競技力向上対策室長ら一行は、二〇〇〇年とやま国体で活躍が期待される高岡市内の強化指定企業五チームの練習を視察した。訪れたのは、男子レスリングの宮越工芸、女子柔道の塩谷建設、女子ハンドボールの立山アルミ、男子バドミントンのトナミ運輸、女子バドミントンの三協アルミ。

激励会で知事が「秋季国体で皆さんの力を合わせ総合優勝できるよう祈っています」とあいさつ、選手らと握手し激励した。各チームの主将が「国体までの残された時間を一生懸命練習に励み優勝できるよう頑張ります」と力強く決意を述べた。

激励を受けた高岡市の企業チームは、いずれも全国トップクラスの実力を持ち、とやま国体での富山県総合優勝の原動力となるチームであり、今回の激励を通して「日本一のスポーツ県」を目指す中沖知事の励ましの言葉の一言一句に、強い意気込みを感じた。

韓国実業団チームと合同合宿
男子バドミントン・トナミ運輸

六月十四日から二十三日までの間、男子バドミントンのトナミ運輸は韓国実業団チームの唐津郡庁との合同練習を高岡市民体育館で行なった。

韓国選手のスピードに慣れることと技術アップを目的に平成十年から始められ、毎年、高岡と韓国で交互に行なっている。唐津郡庁は、強豪韓国の実業団トップチームで、元ナショナルメンバーがそろっている。トナミ運輸の朴星宇選手兼コーチが、三年前まで同チームに在籍していた縁で始まった。

また、シドニー五輪出場を決めている舛田圭太選手（日体大）と、ダブルスでペアを組む大束忠司（同）らも参加した。朴コーチは元韓国ナショナルチームのメンバーであり、舛田選手が初めて対戦した世界ランキング選手である。

毎朝九時から夕方まで、蒸し暑い市民体育館の中、世界のトッププレーヤーとのハードな練習を毎日こなしていた。その成果は、七月九日、第50回全日本実業団選手権大会で優勝し、さっそく表れた。地元とやま国体でも活躍を期待したい。

宮越工芸㈱会社創業五十周年記念とレスリング競技モニュメント除幕

去る、六月十七日（土）宮越工芸㈱では、会社創業五十周年式典に合わせ、MCホール（宮越体育館）前にレスリング競技のモニュメントを建立された。

このモニュメントの色は、黒を基調としたブロンズ像である。十九世紀の

◉加盟団体紹介(28)

高岡山岳会

高岡山岳会は、昭和初期より山登りやスキーを楽しむ同好者の集まりで組織化されていた高岡スキー連盟が前身である。その後、各種のスキー競技・大会等の活動が多くなり、また昭和33年第13回富山国体開催を機にスキー部門が分離独立したので山岳部門を高岡山岳協会と改称し、山行・研修会・座学等の活動をしていたが一時的活動も停滞し、加えて加盟団体の減少もあって昭和47年に高岡山岳会として今日に至っています。

活動は職域団体的ですが、一泊登山や日帰り山行を主とし、他方、県山岳連盟の事業に積極的に参画（県体・北信越国体・県民登山教室）を通じ自己の技術の研鑽と登山の楽しみ方や、自然保護の大切さなどの啓蒙を行っております。会員の一部はここ数年前から2000年とやま国体山岳競技大会の裏方として準備・リハーサルなどに忙殺され、会独自の活動は自粛し、本大会が成功裡に終わるよう努力しております。

▼米　オレゴン州

登山の競技化には否定論もありますが、一応、次の要項で国体種目に入っております。

競技概略を紹介しますと

1　**縦走競技**
　規定の負荷重量でコースの所要時間を争う

2　**踏査競技**
　規定の負荷重量で競技用地図から定点確認に正確さと速さを競う

3　**登攀競技**（フリークライミング）
　人工的に造られた垂直壁を速くどこまで高く到達できるかを競う

の競技から成り、踏査競技はスタート地点・ゴール地点での選手の意気込みや敢闘の熱意が見られる。クライミングは終始、競技の醍醐味を目前で観覧できます。是非、応援・声援して下さい。

近年、登山人口がますます増え高齢化しており、登山様式や目的も信仰登山を始め、初歩的な低山のハイキングから高度・高峰の登攀、タイムレース様のカミカゼ登山（遭難の虞有り）、趣味と実益を兼ねた山野草観賞登山（盗掘の虞有り）と、多種多様に展開されている。

誰がどの様な登山をされようとも各自の自由ですが、最低限守ってもらいたいルールがあります。

○他人に迷惑をかけない。
○自然を破壊しない・汚さない。

また、当会は正しい登山の普及と指導を行える人材の育成を目的として、（財）日本体育協会スポーツ指導員資格及び（財）日本山岳協会公認審判員資格を積極的に取得しております。

○日本体育協会スポーツ指導員
（B級資格　2名、C級資格　2名）
○日本山岳協会公認審判員
（中央審判員4名、地区審判員5名）

お願い

平成12年度 (財)高岡市体育協会賛助会員 年会費納入について

日頃から本市の体育・スポーツの振興に格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

いよいよ「二〇〇〇年とやま国体」夏季大会・秋季国体を目前に控え、感動あふれる熱戦や、市民と多くの選手・役員との心温まるふれあいの数々が、期待されるところであります。

本協会といたしましては、本市の選手が国体などの高いレベルで活躍し、市民の期待に応えるためにも、平成12年度も引き続き選手育成強化に努め、目標達成に邁進したいと存じます。

つきましては、本年も（財）高岡市体育協会賛助会員主旨にご賛同いただき大変厳しい折とは存じますが各界、各位の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新規会員も募集いたしておりますので併せてよろしくお願い申し上げます。

また、当協会の主旨をご理解いただき、すでに平成12年度賛助会費を納入していただきました会員の皆様に深く感謝申し上げます。

賛助会員年会費
・個人会員　一口　一〇、〇〇〇円

後半二〇年間に最も活躍した彫刻家として、知られており、装飾的で技術的にも見事な彫刻を数々創作した、イタリア生まれのANTONIO・FRILLI作。

「二〇〇〇年とやま国体」のレスリング競技への強い意気込みを象徴した建立であり、今後ともレスリング競技の普及・振興に寄与されることを、心よりお祈り申し上げます。なお、宮越工芸は七月十五日東京駒沢体育館で開幕した全日本社会人レスリング選手権で二年連続優勝した。

頑張る企業チーム

伏木海陸運送株式会社相撲部

◇創部からのモットー

伏木海陸の相撲部は、昭和19年に会社設立と共に発足し、相撲道に精進することで心身を鍛え、社員として、社会人としての資質向上に努めることをモットーとして練習に励んでいる。

◇各種大会への出場

選手は、県内の高校相撲部で活躍した者や全国高校総体・国民体育大会に出場したことのある者などが入部し、厳しい練習をとおして、体力・気力・技の充実を図っており、そこで鍛えられた選手は過去において、県社会人や県体、更に全日本選手権などへ数多く出場しており、県内における社会人相撲の名門チームである。

◇県強化指定チーム

平成5年10月に富山県知事より「企業チーム強化指定」を受け、それを契機に会社側の深い理解と支援により、平成6年には室内相撲場が建設され、「2000年とやま国体で活躍できるチームづくり」に弾みがついた。

選手の強化に当たっては、日々の猛練習と県外遠征や合宿などを行い、現有選手の底上げを図るとともに、新戦力となる高校、大学の有望選手の獲得に努めた。その結果、7月2日（日）靖国神社（東京）で開催された第38回東日本実業団相撲選手権大会では、団体3位、個人軽量級3位川西克晴、個人無差別級優勝平野正人など着実に強化の成果が見られた。

◇国体に向けて

国体開催の今年は、大学相撲の名門近畿大学から、数々の全国大会で活躍した平野正人選手が入社し、この補強により選手層も厚くなり、練習相手にも恵まれ、練習量も豊富となって選手全体のレベルアップに繋がるものと期待される。

国体で競技力集大成

ジュニア強化も課題

（財）高岡市体育協会
専務理事　川　渕　義　弘

高岡市体育協会は、5月に評議員会を終え、本年度も二つの柱のもとにスタートした。

今年はいうまでもなく二〇〇〇年とやま国体の夏季、秋季大会を控えており、事業の推進と遂行に力を注がねばならない。

従来から、各競技団体と連携を密にし、国体候補選手を軸に一貫指導体制の充実と精神面の強化を図ってきた。その成果を具現化する年でもある。

まず一つは、高岡市内の企業スポーツチームへの支援策として選手激励会を開くほか、日常の練習会場を巡回して激励する。また、少年の部の候補選手については、企業チームとの合同練習会、強化合宿への参加や、「スポーツ医科学シンポジウム」の開催で、企業チームのトップ選手の体験談を聴く機会を設ける。こうした効果で、総合優勝に向けて弾みをつけたい。

もう一つは、国体終了後、二十一世紀に向けての競技スポーツの充実と発展だ。各競技団体と協力し、特にジュニア層の競技力の向上と強化に主眼を置く。小、中学生、高校生の興味、関心を高め、スポーツ人口の拡大を図っていきたい。

市内の各競技団体にジュニア層の強化策についてヒアリングしたところ、今年は昨年より二団体多い十四競技団体が、小、中学生を対象に各競技の基本を手ほどきする「ジュニア教室」を開くと回答した。こうした取り組みを十分生かしていきたい。

また、少子化や指導者不足による中学校の運動部の廃止にも対応していかねばならない。生徒のスポーツへの欲求は多様化しており、競技スポーツ志向型と生涯スポーツ志向型が見られるのが現状である。この両方を上手く融合させ、その中で競技力の向上を目指すようなクラブの設置も今後、検討して行かねばならない。

北日本新聞
「談論自由席」
平成十二年六月八日掲載

特集 第9回 スポーツ医科学シンポジウム

●テーマ●「2000年とやま国体で勝つには」―トップアスリートの体験談―

今回は、日本のトップアスリートとして活躍中の地元高岡市の企業スポーツから５名の選手に体験談を話していただき、それを基にスポーツ医科学委員の先生や会場からの話題提供によってシンポジウムが進められました。

「体験談」の内容については、高校時代や社会人になって国体に出場したときの体験（大観衆を前に試合したときの経験・イメージトレーニングや試合直前の考え方）を織り交ぜて話してもらいました。

また、対象者を国体の少年の部の候補選手や、指導者など、とやま国体での総合優勝に貢献できるよう底上げをねらうものであります。

平成12年6月21日(水)　午後6時～　　於　高岡市ふれあい福祉センター

三協アルミニウム工業㈱
バドミントン部
明石　由美選手

チャンスを物にするのもしないのも自分の気持ちしだい

私にとって二度目の国体出場のチャンスが巡ってきたのは、大学を経て社会人になって一年目の広島国体のことでした。富山県はバドミントン競技が盛んですし、二〇〇〇年国体を前にとても国体に力を入れていました。当然、代表選手になったからには、優勝という周りの期待とプレッシャーを感じました。

しかしプレッシャーよりも私は自分の力を試してみたい、自分はどこまで出来るのだろうという、とても前向きな気持ちで大会に臨みました。

準々決勝、準決勝と勝ち進み、決勝は、勝っても負けてもおかしくない実力のチームとの対戦でした。しかし私達は、準決勝を接戦でものにした勢いと自信がありました。決勝は特に意識することもなく、「気持ち」とだけ言い合いコートに入りました。大量リードを奪われる場面もありましたが、不安などはまったくありませんでした。最後は自分達が勝つと信じていました。観客席の「がんばれ富山」の応援もとても心地よく、私もいつも以上に声を出し、スマッシュが決まる度に、派手にガッツポーズをしていました。私達は、ダブルス、第一シングルスをストレートで勝ち、優勝することができました。あの時の感動は忘れることができません。国体で優勝することは、簡単な事では無いと思いますが、「自分が勝つ」と思わなければ、可能性が無くなってしまいます。チャンスを物にするのもしないのも、自分の気持ちしだいだと思います。富山県の代表になるという事は、実力はあるのですからそれを自分がどれだけ信じられるかが大切なのではないでしょうか。

トナミ運輸㈱
バドミントン部
今井　紀夫選手

表彰台の頂点に立てるように

社会人になって、自分にとって四回目の出場だった二年前の神奈川国体に優勝できた時の話をします。バドミントンの国体での試合形式は、ダブルス一つ、シングルスが二つ、三人のみで試合する団体戦です。僕は、ダブルスとシングルスをかけ持ちでやることになっていました。

試合結果を言うと、一回戦宮城に2―1で勝ち、準々決勝の北海道に2―1で勝ち、準決勝の大阪に2―0で勝ち、最後、決勝は東京に2―1で勝ちました。

もともと僕はダブルス専門で、全くシングルスに自信がないまま、神奈川国体に臨みました。

シングルスの練習をしていなかった僕にとって一、二回戦のシングルスはすごい新鮮で、また勝ち進むことができてたこともあったが、かなり自信につながった。二日間シングルスをやって、準決勝は一日休むことができた。精神的にも、肉体的にも、リラックスできた。

最終的に、体育館に富山と東京の決勝戦のみが残り、大歓声の中、試合が最後まで続き、僕はそこで完全燃焼ができ、まぐれに近い優勝をすることができた。

地元の富山で開催される国体で、僕自身すごい緊張してて、怖い面もありますが、この中に選手に選ばれて活躍する方もいると思うので、表彰台の頂点に立てるようお互いに頑張れたらいいなと思います。

宮越工芸㈱
レスリング部
戸井田　昌教選手

絶対に負けたくない、負けるはずがない

福島国体は私がちょうど大学三年生の時期でした。当時の私は、体力的、精神面においても一番よかった時でもありました。私は、国体優勝という目標に向かって、毎日、朝のランニングでも必ずトップを走り、また授業の合間を見つけてウェイトトレーニングをしました。

午後練習では人の倍のスパーリングの数をこなして、夜は五km程のジョギングに行き、また週一度の休みには近

くの健康ランドに行って、風呂やサウナでリラックスし、また、一番好きなことをしていい休養を送っていました。そして、この時期に初めてメンタルトレーニングを取り入れました。寝る前に部屋の電気を暗くし、自分が一番リラックスできる好きな音楽を聴きながら、今度自分が戦うライバルを想定し、相手の技を想定しながら、そこへ自分を登場させて自分と相手を戦わせて、最後には自分が勝利するシーンを何度も思い浮かべ、さらに表彰台の上に立ちメダルを首にかけてもらうシーン、試合が終わってからみんなに祝福を受けて言葉を交わしているところまでイメージしていました。

努力をすれば試合前に、私はこの日のためにあれだけ練習をしてきたのだから、絶対相手に負けたくない、負けるはずがない。と自然に思うはずです。

この気持ちが生まれたときには、必ず試合で良い結果が出ると私は思います。

立山アルミニウム工業㈱
ハンドボール部
本間　智美選手

今を一つ一つ全力で

地元「わかしゃち国体」のために高校一年生の時から選考会や強化練習をし、国体の年には韓国遠征にまで連れていってもらって本当に良い環境づくりをしてもらっていました。最初は地元で開催される国体に出場できるチャンスはめったに無いので「いい意味で楽しもう」とぐらいしか思っていなかったのですが、本当にいろんな人が期待して応援してくれていたので、「地元で絶対勝たなくてはいけない」という強い気持ちを持つようになりました。その気持ちが国体前に空回りしてしまい、地元選手というプレッシャーに負け、逃げたくなってしまいました。

しかし一つ救われたのは、愛知選抜の監督やコーチが「たまたま地元で国体があるだけで、すばらしい経験だけどおまえらにとっては、インターハイや選抜大会と変わらない大事な大会の一つ」だから「いつもと変わらずに一生懸命やればいい」というふうに選手をもっていってくれたことです。

いざ、国体が始まってみると、勝たなくてはなんてそんなことを考えているよりも、この大会を、「一日でも長い大会にしよう」ただそれだけを思って、みんなで一戦一戦、がむしゃらに試合をしていきました。気がつくと決勝の舞台に立っていて、結果、私達は「わかしゃち国体」で優勝していました。

「結果よりも経過を大事にしていきたい」と改めて思いました。頑張ってもなかなか結果を出すことは難しいのですが、「やらなければ絶対に自分の思う結果は手にはいらない」ので、今を一つ一つ全力でこれからも頑張っていきたいと思います。

塩谷建設㈱
女子柔道部
磯崎　祐子選手

自分の調整パターンを

国体やそれぞれの試合に勝つための近道として挙げられるのは、整った練習環境、監督コーチに恵まれること、そして自分のやる気など、毎日の練習が充実していることです。

私が勝つときの試合は、試合中に周りの人の声がよく聞こえ、相手の動きがよめる、あるいは想定できるといった気持ちの充実、集中力がある時であり、上がるのではなく適度な緊張がありました。そして体重調整、減量が上手くできたときです。

この状態にするために、私がいつも試合前に心がけていることがあります。それは二つあるのです。

一つは目的、課題をその試合ごとに明確にする。その目的とはただ優勝したい、勝ちたいというのではなく、どのようにどんな対策、方法で試合に勝っていくのかを明確にしておくことです。よく、相手の防御対策にばかり気を取られてしまうことがありますが、攻撃は最大の防御なので自分の攻撃の対策を重視すべきでしょう。

二つ目は、一週間前からイメージトレーニングをすることです。夜、寝る前に試合の何パターンかの勝つイメージを五分～十分ぐらいします。それを試合まで繰り返し、気持ちを盛り上げています。こういったことを行うことで私はただ勝ちたいとしか思っていないのと差をつけ、何か試合中にハプニングがおきた時にも、冷静に対処できるのです。

これはあくまで私の場合ですが、自分の調整パターンをつくり、明確にしておくことが大事だと実感しています。

ソフトテニス
韓国大統領旗争奪大会へ

当シンポジウムに講師として、講演していただく予定だった裏地美香選手は、六月二十日から開かれたソフトテニスの韓国大統領旗争奪大会に、同僚沼崎優子選手とともに、急に出場することが決まったため、やむを得ず欠席となった。

大会は、地元韓国をはじめ、世界トップの台湾や中国から選手が参加、ダブルス、シングルスと団体戦を行う。

裏地、沼崎両選手は、ダブルスとシングルスに出場した。

シンポジウム当日は、高校国体候補選手や指導者など、二百名余り参加し、講師の話を中心に委員の先生方の質問などもあり、大変有意義であった。

なお、講師の講演内容は、紙面の都合上、相当部分カットして掲載しております。第九回シンポジウムの詳しい内容は小冊子にして編集発刊の予定でおります。

スポーツドクター・アドバイザー

プールでの飛び込みに注意

高岡市民病院第3医療局長
山田　均

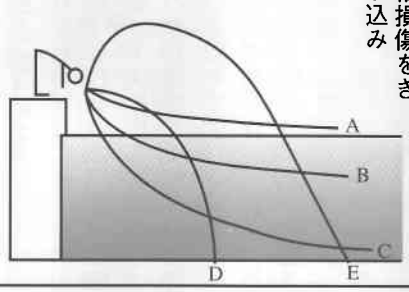
いよいよ水の季節になってまいりました。プールや海で遊ぶ機会が多くなることと思います。

しかし残念なことに最近、学校プールにおいて、頭からの飛び込みにより、首の骨を骨折する例が増加してきております。児童の体格が向上してきている一方、プールの水深は溺水予防の見地から1m程度と浅いのが現状です。こうした状況下で頭からの飛び込みを行いますと、プール底に頭をうち、同時に首の骨を捻挫し、骨折してしまうというものです。首の骨の中には脊髄（せきずい）という大変重要な神経が通っています。それが首の骨の骨折や脱臼により損傷されてしまいますと、手足が全く動かなくなり、すわることも出来なくなってしまいます。たかがプールでの飛び込みごときで、と思われるかもしれませんが、これが現実です。

こうした事故を予防するためには個人の要因、指導上の要因、環境の要因に分けて考えてみる必要があります。個人の要因としては、ふざけて急角度に飛び込んだりしない。競泳選手の場合、水深の浅いプールではパイクスタートをしない（図1E）。指導の要因としては、飛び込みに不慣れな児童は恐怖心のあまり、十分に蹴り出すことが出来ずプール壁に近いところに急角度で入水することが多く（図1D）、その結果プール底に頭をぶつけてしまうケースが多くみられます。浅い水深のプールに頭から飛び込む場合、入水点まで身長の2倍の距離をとることと入水後に手首を上に向けるよう指導することがポイントとされています。お腹をうってでもよいから、力強く蹴って、出来るだけ遠くに飛び込むよう指導すべきでしょう（図1A）。環境の要因としては、あふれた水を補充し、プールの水深を維持する。スタート台を撤去する。海では干潮、満潮を考え水深を誤認しないようにする。などの配慮が必要でしょう。

図1　飛び込みパターンの模式図

A　いわゆる腹打ち
B　通常の飛び込み
C　水底で顔面、口部などを打撲、擦過する飛び込み
D　水底で頭部を打撲して頸椎損傷をきたす飛び込み
E



不幸にして事故が発生した場合、手足の麻痺を生じると溺水の危険があります。速やかに水上に引き上げなければなりません。その際、極力首を動かさないようにして浮上させ、担架に移して下さい。最近は水に浮く担架（アクアキャリー）が開発されていますので、これらを常備しておけば救助、搬送が容易となります。医療機関への搬送でも首を不用意に動かさないように十分に注意し、図2のような方法で行って下さい。

図2　脊椎損傷患者の搬送方法

a　両手を肩の下に入れ、両肘で頭をはさみこむようにして、頭頸部を保持する。

b　脊椎に屈曲伸展、捻じれをきたさぬよう頭部に1人、左右それぞれ2人の計5人で搬送する。

▼米　オレゴン州

◉加盟団体紹介(28)

高岡山岳会

高岡山岳会は、昭和初期より山登りやスキーを楽しむ同好者の集まりで組織化されていた高岡スキー連盟が前身である。その後、各種のスキー競技・大会等の活動が多くなり、また昭和33年第13回富山国体開催を機にスキー部門が分離独立したので山岳部門を高岡山岳協会と改称し、山行・研修会・座学等の活動をしていたが一時的活動も停滞し、加えて加盟団体の減少もあって昭和47年に高岡山岳会として今日に至っています。

活動は職域団体的ですが、一泊登山や日帰り山行を主とし、他方、県山岳連盟の事業に積極的に参画（県体・北信越国体・県民登山教室）を通し自己の技術の研鑽と登山の楽しみ方や、自然保護の大切さなどの啓蒙を行っております。会員の一部はここ数年前から2000年とやま国体山岳競技大会の裏方として準備・リハーサルなどに忙殺され、会独自の活動は自粛し、本大会が成功裡に終わるよう努力しております。

登山の競技化には否定論もありますが、一応、次の要項で国体種目に入っております。

競技概略を紹介しますと

1　**縦走競技**
　規定の負荷重量でコースの所要時間を争う

2　**踏査競技**
　規定の負荷重量で競技用地図から定点確認に正確さと速さを競う

3　**登攀競技**（フリークライミング）
　人工的に造られた垂直壁を速くどこまで高く到達できるかを競う

の競技から成り、踏査競技はスタート地点・ゴール地点での選手の意気込みや敢闘の熱意が見られる。クライミングは終始、競技の醍醐味を目前で観覧できます。是非、応援・声援して下さい。

近年、登山人口がますます増え高齢化しており、登山様式や目的も信仰登山を始め、初歩的な低山のハイキングから高度・高峰の登攀、タイムレース様のカミカゼ登山（遭難の虞有り）、趣味と実益を兼ねた山野草観賞登山（盗掘の虞有り）と、多種多様に展開されている。

誰がどの様な登山をされようとも各自の自由ですが、最低限守ってもらいたいルールがあります。

○他人に迷惑をかけない。
○自然を破壊しない・汚さない。

また、当会は正しい登山の普及と指導を行える人材の育成を目的として、（財）日本体育協会スポーツ指導員資格及び（財）日本山岳協会公認審判員資格を積極的に取得しております。

○日本体育協会スポーツ指導員
（B級資格　2名、C級資格　2名）
○日本山岳協会公認審判員
（中央審判員4名、地区審判員5名）

お願い

平成12年度 (財)高岡市体育協会賛助会員年会費納入について

日頃から本市の体育・スポーツの振興に格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

いよいよ「二〇〇〇年とやま国体」夏季大会・秋季国体を目前に控え、感動あふれる熱戦や、市民と多くの選手・役員との心温まるふれあいの数々が、期待されるところであります。

本協会といたしましては、本市の選手が国体などの高いレベルで活躍し、市民の期待に応えるためにも、平成12年度も引き続き選手育成強化に努め、目標達成に邁進したいと存じます。

つきましては、本年も（財）高岡市体育協会賛助会員主旨にご賛同いただき大変厳しい折とは存じますが各界、各位の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新規会員も募集いたしておりますので併せてよろしくお願い申し上げます。

また、当協会の主旨をご理解いただき、すでに平成12年度賛助会費を納入していただきました会員の皆様に深く感謝申し上げます。

賛助会員年会費
・個人会員　一口　一〇、〇〇〇円

スポーツ人脈 3

柔道を通して人間形成を

高岡市柔道連盟　原田興次氏

原田氏の柔道人生は、昭和八年旧制県立高岡中学が出発点、当時、高岡中学の師範であった近藤四郎先生の指導ときびしい練習のもと、真面目で、持前の頑張りによって、学年が進むにつれ、寝技を中心とした実力が身につき頭角を表わした。昭和十二年中学五年生のとき、近県中等学校柔道大会、北陸大会、関西大会（四校全国中等学校予選）で団体優勝。更に全国中学校柔道大会では、高岡中学の主力選手として大活躍し、準々決勝進出の原動力の役割を果たしている。また、同年古城公園内に、高岡市における柔剣道のメッカである高岡武徳殿が完成し、その記念大会の中等学校の部で、個人優勝を成し遂げている。

高岡中学卒業後、当時大学柔道の名門拓殖大学に進学した。そして、牛島辰熊先生に師事し、高度な柔道技を身につけ、各種大会で、活躍する。中でも大学二年のときには、全国よりトップレベルの選手が集まる靖国神社奉納武道大会で、得意の寝技、固め技を駆使し決勝まで進出、その決勝の相手は、後に日本選手権にも優勝したことのある木村政彦選手と対戦し、激戦の末惜しくも敗れた。

又、昭和十六年には、伝統の警視庁対拓殖大学戦や紀元二千六百年奉祝武道大会等に出場するなど、中央において輝かしい成績を残しており、闘志溢れる寝技は全国的にも評価が高かったようである。

終戦後は、連合国の占領政策により大日本武道会が解散され、学校における武道も廃止になり、武道の空白時代があった。この間、それまで、柔道一筋に歩んできた原田氏にとっては大変ショックであり、むなしい思いをされたようである。

その後、柔道は進駐軍の理解によりスポーツとして復活し、各種大会が逐次開催されるようになった。富山県においても、県体に柔道競技が取り入れられ、原田氏は四段の部において個人優勝を果たし、柔道ができることに喜びを強く感じたようだ。更に持前の実力を発揮できる機会に恵まれ、昭和二十七年から三十三年まで開催された「富山県東西対抗柔道大会」において、高岡市中心の西軍が第二回から第六回まで五年連続優勝を成し遂げた原動力として活躍された。

昭和二十七年には、武道復活により、いち早く島田孝氏等と共に高岡市柔道会を結成し、役員として組織の拡充、学校柔道の指導を通し、柔道人口の増加に尽力する。このような、原田氏の実績と人柄により富山県柔道連盟副会長や高岡市柔道連盟会長の要職を勤め、長らく柔道の振興に大きく貢献された。

一方、原田氏を語るに、忘れてはならないことは、高岡市内中学校での指導があります。戦後、学校柔道にはブランクの時代があり、柔道の指導ができる教師が少ない中、指導者のいない中学校へ家業を忘れて献身的に誠心誠意指導に奔走された。原田氏の指導理念は「柔道を通して人間形成を」であり、礼儀を重んじ、節度ある練習態度に力を入れられた。このことは、直接柔道部の指導を受けた高岡西部中学や国吉中学だけでなく、講習会などで指導を受けた中学校柔道部員にも大きな影響を与え、その中から幾多の優秀選手を輩出し、現在も役員として、指導者として、活躍されている。

平成八年、全国柔道高段者大会に十回以上出場し、栄えある表彰を受けており、八十歳を過ぎた現在も家業の染織業の傍ら、小学生、中学生指導にあたっておられます。今も寝技・関節技・絞技の指導では未だ右に出るものがいない。先生には、これからも元気でいつまでも柔道衣姿で頑張っていただきたいと願うものです。

（柔道連盟　江嵐記）

平成12年度 今後の主な行事

8月5日～7日（中心会期）
第53回県民体育大会
8月　理事会
8月30日　国体選手壮行会（夏季）
9月9日～12日　とやま国体夏季大会
10月7日　国体選手壮行会（秋季）
10月7日～9日　国体炬火リレー
10月14日～19日　とやま国体秋季大会
10月29日　高岡市中学校運動部リーダー養成研修会
11月23日　富山県駅伝競走大会
12月2日　理事会
12月2日～3日　役員研修会・体育功労者表彰（小・中・高校生）
1月3日～4日　新春武道稽古始め

編集後記

「二〇〇〇年とやま国体」の開催を間近に控え、先に行われた県知事による企業チームの激励と国体で活躍が期待される高校生を対象としたスポーツ医科学シンポジウムを特集としました。

また、国体開催を契機に内容の充実を計るため、紙面をA4版とし、表紙もカラーにして読みやすくしました。

国体後、二十一世紀へのスポーツ活動を推進するには、本紙の情報提供が重要な役割を果たすものと思います。

編集委員一同張り切っておりますので、ご意見等あればお寄せください。